経済 TOPICS

No. 247

(2025年9月12日)

景気ウォッチング（要旨）

日本　…　生産、個人消費、輸出が横這い圏内の動きのなか、設備投資が堅調に推移していることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、エネルギー価格の落ち着きなどから、前年比プラス幅が縮小している。この間、徐々に顕在化している米国の通商政策の影響や中国経済の長期低迷など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国　…　生産が横這い圏内の動きを続けるなか、設備投資は堅調に推移しているものの、個人消費が弱めの動きとなっているほか、労働市場が悪化しつつあることから、全体としては減速の兆しがみられる。消費者物価は、緩やかに上昇している。

(参考)日米の物価動向

〈日本〉　食料価格(除く生鮮食品)の上昇テンポがやや鈍化し、エネルギー価格が政府補助金の効果などにより落ち着いたことから、前年比プラス幅が縮小している。この間、米国の通商政策の影響から、輸送用機器の輸出物価(契約通貨ベース)が低下している。

〈米国〉　サービス以外の価格が鎮静化しているなか、サービス価格が緩やかに上昇したことから、全体としても緩やかに上昇している。

京都フィナンシャルグループ
京都総研コンサルティング